

### 3 菌種のNDM型メタロβ-ラクタマーゼ産生菌を胆汁から同時検出した1症例

◎大澤 稜<sup>1)</sup>、森 志穂<sup>1)</sup>、建部 雅彦<sup>1)</sup>、後藤 雪乃<sup>1)</sup>、大西 紀之<sup>1)</sup>、太田 浩敏<sup>2)</sup>  
岐阜県総合医療センター 臨床検査科<sup>1)</sup>、国立大学法人 岐阜大学 医学部附属病院 検査部<sup>2)</sup>

#### 【はじめに】

NDM型メタロβ-ラクタマーゼは2009年に新たに報告されたカルバペネマーゼであり、IMP型、KPC型、OXA型と同様に世界的に注目、重要視されているが日本国内での報告例は少ない。今回我々は同一患者から3菌種のNDM型メタロβ-ラクタマーゼ産生菌を同時に検出したので報告する。

#### 【症例】

75歳男性。膵頭部癌に対する膵頭十二指腸切除術後に胆管炎となりPTBD留置がされていたが、持続する高熱を認め入院加療となった。入院時にPTBD追加留置が行われ、その際に採取された胆汁が細菌検査に提出された。退院から7か月後に外来にてPTBDチューブ交換を行った際にもう一度胆汁が採取され提出された。

#### 【細菌学的検査】

入院時に採取された胆汁からカルバペネム耐性 *Citrobacter freundii* が検出され、mCIM法陽性、SMAディスクでも陽性反応が認められたためメタロβ-ラクタマーゼ産生菌と判定された。その7か月後の外来受診時に提出された胆汁からは *Citrobacter freundii* に加え、*Enterobacter cloacae*、*Klebsiella oxytoca* の2菌種のカルバペネム耐性菌が新たに検出され、いずれもmCIM法陽性、SMAディスクでも陽性反応が認められた。岐阜大学医学部附属病院に3菌種の遺伝子解析を依頼した結果、3菌種ともNDM型メタロβ-ラクタマーゼ産生菌であることが判明した。

#### 【治療経過】

PTBDによるドレナージで解熱が認められ全身状態も良好となったため、胆汁から検出さ

れた菌に対しての治療は行われず、ドレナージ治療での外来フォローとなり退院となった。

#### 【まとめ】

本症例患者には海外渡航歴がなかったことからNDM型メタロβ-ラクタマーゼ産生菌が日本国内においても市中などでは広がりつつある可能性が示唆された。今後耐性傾向の強い菌については国内報告例の少ない遺伝子型の可能性も常に念頭において検査を進めていくことが必要である。また、検出された場合の感染対策や届出について熟知しておくことも重要である。

連絡先 058-246-1111 (内線 5112)